

官・民・学で拓く 自然共生社会

自然の豊かさは人や地域の豊かさにどうつながるのか？



2025 年

11 月 5 日 水

時間 13:00-16:15

場所 新潟大学中央図書館1F
ライブラリーホール
新潟市西区五十嵐2の町8050

定員 会場 150人
オンライン 500人

Zoomウェビナーによる配信 (AI自動翻訳使用)

主催 新潟大学 佐渡自然共生科学センター

申込 申込フォーム

右のQRコードを読み取り申込フォームからお申し込み下さい。先着人数に達し次第、募集を締め切らせていただきます。



配信協力 「応用地質株式会社」

シンポジウム内容

世界各地で洪水などの自然災害が増える中、ドイツのエレベ川流域では欧州コウノトリの保全活動とあわせ、農地や氾濫原管理の取組みが進められています。自然を守ることは、生きものを守るだけでなく地域社会とのつながりや、経済の豊かさにも大きな役割を果たしています。本シンポジウムでは、ドイツ・エレベ川や新潟・佐渡の事例を通じて、地域が豊かになる自然共生社会のあり方を議論します。

開会挨拶 13:00-13:05 牛木辰男 新潟大学学長

基調講演 13:10-14:10

「ドイツエレベ川バイオスフィア・リザーブにおける欧州コウノトリの保全活動」 Prof. Johannes Prüter (リューネブルク大学)

事例紹介 14:15-15:10

新潟・佐渡における保全活動とシチズンサイエンス

「えちごエコネットの紹介」

山崎憲人 (国土交通省 北陸地方整備局)

「越後平野における大型水禽類の保全エリアの選定」

向井喜果 (新潟大学 自然科学研究科)・関島恒夫 (新潟大学 農学部)

「えちごエコネットにおける社会・経済的意義」

藤田美幸 (新潟国際情報大学 経営情報学部)

「ハクチョウカウントと潟のワイズユース」

佐藤安男 (新潟県水鳥湖沼ネットワーク・水の駅「ビュー福島潟」)

「佐渡島でとりくむシチズンサイエンス」

豊田光世 (新潟大学 佐渡自然共生科学センター)

総合議論 15:20-16:10 司会：河口洋一 (佐渡自然共生科学センター)

パネリスト：講演者6名+本間航介, 大森紹仁 (佐渡自然共生科学センター)

講評 16:10-16:15 末吉邦 新潟大学理事

